

第3滑走路・騒音反対！ 住民の追及で

はば 早期推進阻もう

成田3案 4首長に聞く 移転・騒音

国と県、成田国際空港会社(NAA)、空港周辺市町でつくる4者協議会が成田空港の機能強化策3案を打ち出したことを受け、関係市町では10月に大規模な住民説明会が開催され、今月から地区単位の説明会も行われている。このうち移転や騒音で大きな影響を受ける成田市と芝山町、多古町、横芝光町の4首長に3案への考え方を聞いた。成田、芝山、多古が案におおむね賛成しているのに対し、横芝光は空域飛行制限緩和を「現時点では無理」とするなど、姿勢の違いが浮き彫りになった。(横村直人、赤松正基)

空港強化策 自治体

市としては旅客の増加に伴って、成田空港の機能強化策をめぐり、移転による騒音対策、滑走路の3段階について懸念を表明している。お祭り騒音の対策も必要と見ている。また、横芝光は空域飛行制限緩和を「現時点では無理」とするなど、姿勢の違いが浮き彫りになった。(横村直人、赤松正基)

住民との協議 双方向で

近年、自治体は市町づくりに関しては、住民との協議を重視している。成田市の小泉一成市長は、住民との協議を重視している。成田市の小泉一成市長は、住民との協議を重視している。成田市の小泉一成市長は、住民との協議を重視している。

成田市
小泉一成 市長

「成田が生き残るためには深夜・早朝便延長は不可欠」などと豪語していた小泉一成成田市長。11月17日の読売新聞インタビューでは一転して「住民から厳しい意見が出ている。政府・NAAに対策を要求していく」旨を語り、焦りを隠せていない



反対同盟は11月20日、成田市久住地区の説明会入口で宣伝を行った

10月上旬から始まった空港機能強化案に関する説明会で、住民からの激しい反発と怒りが広がっています。

「拡大説明会を10月中に4、5回やって形式を整え、空港圏自治体協議会～4者協議会を開いて正式決定し、計画を始動させる」との思惑をもっていたNAAや推進派市長たちの目算は完全に崩れました。

新聞インタビュー(11月17日読売)で、成田市の小泉一成市長の発言は一転して「NAAや国、県が十分な対策を出せない場合は、市としても厳しい判断をせざるを得ない」など見えすいた発言をしています。「説明会をただやるつもりはない」と議会答弁していた相川勝重芝山町長も「期限を区切らずに説明していく」などと豹変(ひょうへん)しました。住民の怒りは確実に首長たちを追いつめています。空港機能強化計画を撤回させることは可能です。さらに声をあげましょう。

撤回は可能
さらに声をあげよう

「空港機能強化案」反対！ 市東さんの農地守れ！
1・9 新年旗開き(新年)に御参加を
1月9日(月) = 成人の日 = 午後1時 レストラン「ハナマサ」

芝山、多古、成田など各地 説明会で住民の抗議噴出

30万回化、カーフェュー時の住民無視に怒り

山武市での説明会(10月29日)



成田市、山武市の2市および芝山町、多古町、横芝光町での「空港機能強化計画」説明会で住民の怒りが広がっています。その背景には、過去何度も国交省、NAA、千葉県、地元首长たちに裏切られてきたという怒りの蓄積があります。2010年の3月には年間発着枠の22万回化が提案され、住民たちは泣く泣く協力させられました。そのわずか半年後の10月、

今度は30万回化を飲ませられたのです。その時の説明会でも騒音直下の住民たちからは、厳しい批判と要求が出されたのですが、「法律がない」「意見は承ります」という形式論で、無視されました。

2013年のいわゆるカーフェュー緩和時にも同じことがくり返されました。今回の「空港機能強化」なる騒音地獄の拡大に対しては、住民の「堪忍袋の緒」が切れました。

「空港による恩恵」をふりかざせば、黙ると高をくくっていた国交省・NAAの思惑は吹き飛びました。「成田は内陸空港だ」「空港間競争など住民にはメリットない」という正論が堂々と主張されています。力を合わせ「計画」を撤回させよう。

入場する原告団(12月8日 最高裁)



最高裁の逆転判決弾劾！

厚木基地爆音訴訟

12月8日、最高裁は厚木基地の爆音訴訟で、1審、2審判決を破棄して、住民側逆点敗訴の判決を強行しました。「騒音は人を殺す」のです。住民は新たな訴訟で闘うと言っています。連帯しよう。

「成田は内陸空港だ」「空港間競争などメリットない」

成田市天神峰をデモする250人の労農学市民（12月4日）



「体張って市東さん農地守る」

12・4 現地闘争で決戦宣言

12月4日、反対同盟の「市東さんの農地を守ろう！ 三里塚現地闘争」の呼びかけに応え、250人の労農学市民が集まり、最高裁の上告棄却決定による強制執行（農地の取り上げ）に反対する集会、デモを行いました。市東孝雄さんは「この地で農業をやり続ける」との決意を表明し、集まった人々は「体を張って農地を守る」と決意し、決戦体制に入ることを誓いました。



強制執行差止訴訟の提起後
記者会見する市東孝雄さん
（11月30日 弁護士会館）

強制執行差止訴訟を提起、弁論を開始

これに先立つ11月30日、市東さんはこの強制執行を差し止める「請求異議の訴え」という裁判を千葉地裁に行い、記者改憲を行ってNAAを弾劾しました。12月5日、この裁判の係属部となった千葉地裁民事第5部の鹿子木康裁判長は、市東さん側弁護団に対して、この裁判の弁論を開始すると

告げ、日程を来年3月2日に指定してしました。また、この裁判の判決が確定するまで「強制施行を停止せよ」との仮処分¹の提起に対しても「審尋を行う」との決定を告げました。NAAによる強制執行攻撃への大きな反撃です。強制執行に対する陣形を維持しつつ、3・2弁論に向かおう。

反対同盟、韓国の100万決起闘争に参加

11月12日、韓国ソウルで闘われたパククネ政権打倒全民衆総決起大会に反対同盟から萩原富夫さんが、動労千葉などと共に参加して闘いました。11月4日に三里塚を訪れた民主労総の仲間との再会し交歓しました。「日本でも三里塚を先頭に韓国のような闘いを実現しよう」と萩原さんは語っています。



ソウル市庁前での民衆大会（11月12日）

地域住民の声

成田～芝山～多古～

今回は芝山町で開かれた説明会での住民の怒りの声を紹介します。説明会は年内は12月末まで予定され、さらに来年1月にも予定されています。

◆騒音下住民の苦しみを真剣に考えるべきだ

言いたいことが一杯あると思いながら、空港会社の説明を聞いていた。6年前、発着枠を30万回にする説明を受けました。3年前「深夜・早朝便を延長したい」という説明も受けました。町民はNAAの言葉を信じてやむなく協力しました。けれど、何のメリットもありませんでした。ただうるさいだけです。だから先ほど来「あなた方もここに住んでみる」と言う言葉が出て来るんです。

家の中の一部しか防音工事してくれない。騒音下に住んでいる住民の切実な気持ちを本当にわかっているんですか。も

う何十年も我慢してる住民のことを真剣に考えるべきだ。

◆机上の説明はいらない。もうゴメンだ

一番厳しいのはこの辺の地域ですよ。30万回化の時もカーフェューの時も住民から説明を求められて、形だけの説明をただけでしょ。あとは何もない。「要望を検討します」で終わり。返事もない。私たちは一軒の主（あるじ）ですよ。先祖から、子孫を守って頑張ってきているんです。うるさいのを我慢して、農家が毎日家の中にこもって生活していただけますか。外で仕事しなきゃいけないんです。台所だって、居間だって、全部防音工事が必要なんだ。法律がどうのこうのじゃない。

◆騒音は屋根から壁から入って来る

寝室だけ「内窓つけます」なんて防音にならない。騒音は屋根からも壁からも入って来る。おれは大工だけどサッシだけで防音なんて到底無理。家をぐるりとやらなければ意味がないんだよ。

航空機からの落下物、10年で21件も



航空機から落ちた氷塊

11月21日、NAAが発表した「環境報告書2016」（内容は2015年度）によると、成田空港を発着する航空機からの落下物が10年で21件にも上ることが分かりました。しかも、2013年度が2件、2014

年度が3件だったのに2015年は7件に増えています。落下物対策が行われていないことを示しています。10月29日の成田市久住での説明会では、庭に氷塊が落ちた住民の怒りの抗議がありました。